

# 和歌山森林管理署

担当者

森林技術指導官：木村崇人  
地域林政調整官：藪本博文  
TEL：050-3160-6120

- 県土の77%（36万ha）が森林である和歌山県は、昔から「紀州木の国」といわれ、温暖多雨な恵まれた自然環境の中で生長した「紀州材」を生み出す林業地であり、県内のみならず各地で「紀州材」は利用されています。

民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が21万haで、人工林率が61%と全国平均41%を大きく上回っています。また、人工林の年間成長量は90万㎡あり、資源構成は11齢級（51～55年生）の林分が最も多くなっています。木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。

一方、1万6千haある国有林の大部分は、紀北・紀中・紀南の各流域の水源地域に散在しながら位置しており、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮に寄与しています。また、高野山、権現山、那智山等の国有林は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のコア及びバッファゾーンとなっており、歴史的経緯及び文化的背景を踏まえた森林景観の保存・管理を行っています。

- 和歌山県との地域林政連絡会議を、平成28年6月と平成29年1月に開催。平成28年度と平成29年度に向けての民国連携の取組、低コスト造林の推進、シカによる獣害対策を重点に意見交換を行いました。今までと同様に情報交換・共有を行い、フィールド提供等により地域課題の解消に取り組みます。
- 国有林・官行造林が所在する市町村の地域課題や共通課題の把握にあたっては、国有林野等所在市町村長有志協議会等の各種会議の場を活用しながら幅広い情報収集を行っており、課題解決に向けた連携した取組を展開しています。



（和歌山県との地域林政連絡会議の様子）

囲いワナによる捕獲（立花川山国有林）



＜和歌山県との取組の様子＞



ハイキューブによる誘引（高野山国有林）

## 鳥獣被害対策の推進

【課題】シカによる被害拡大の防止（継続）

【取組状況】

- ・シカ被害対策については、防止だけでなく捕獲と併用へ。和歌山県林業試験場と捕獲機材や餌付け方法について情報交換。
- ・和歌山県が行う夜間銃猟、囲いワナによる「ニホンジカ捕獲コスト分析調査」のため、国有林のフィールドを提供。
- ・餌付け用の餌（ハイキューブ）や囲いワナ等の捕獲機材を購入。国有林内で餌付けを実施。
- ・防護については、効果的で低コストとなる防護柵の張り方を、一部箇所において実施。

【成果と今後の課題】

- ・夜間銃猟について、公門谷国有林（田辺市）で実施。今後も、国有林のフィールドでの実施に協力していく。
- ・和歌山県との囲いワナによる分析調査については、立花川山国有林（田辺市）においてハイキューブによる誘引捕獲開始。高野山国有林（高野町）でも誘引を実施。シカが慣れてきたら囲いワナを設置する。
- ・平成29年3月、シカの生態知識等の習得のため、和歌山県に依頼し職員研修を実施。今後も職員による餌付け、有害鳥獣駆除による囲いワナやくくりワナを設置し、林業試験場や猟友会の協力を得ながら捕獲を進める。

箱ワナに入ったシカ（大杉大小屋国有林）



＜国有林内での取組の様子＞



治山緑化箇所での食害防止の取組

## 森林共同施業団地の取組

【課題】 森林共同施業団地における民国連携の推進（継続）

【取組状況】

・平成28年7月、美山地区共同施業団地の運営会議を現地で開催。各協定者の事業地において、問題点や今後の方針等を話し合う。

・美山地区共同施業団地での獣害対策について、囲いワナ等によりシカ捕獲を実施し、取組み状況の情報を共有した。

・平成28年11月、田辺市全域を対象とした「田辺市美しい森林づくり推進協定」を締結。

【今後の課題】

・美山地区共同施業団地について、事業の効率化を図るため共同出荷等を検討し、調整していく必要がある。

・田辺市美しい森林づくり推進協定は、協定者間において路網の相互利用や効率的な路網整備等により、地域の森林・林業の活性化に寄与。



## 治山対策の推進

【課題】 民有林・地域と連携した治山対策の推進（継続）

【取組状況】

・平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害において、特に荒廃状況が複雑で高度な技術を要し復旧規模が大きい、田辺市の本田垣内、愛賀合、上平治川、菖蒲谷、八升前、下モ谷西側の6区域の復旧治山対策について、国が直轄で行う民有林直轄治山事業として実施。

・平成25年4月、紀伊田辺治山事業所開所。田辺市、和歌山県、国が一体となって災害の復旧に取り組む。

【成果と今後の課題】

・平成26年度には菖蒲谷地区の工事が完了。

・平成28年度は、各区域において溪間工、山腹工の復旧事業を行い、崩壊や土石流の発生を抑制し流域を安定した状態に保ち、自然災害の再発を防止。

・平成28年10月、田辺市長による民有林直轄治山事業現場視察。

・平成28年10月、ベトナム・中国からの研修生を民有林直轄治山事業現場案内。

・高校生による職場体験実習を民有林直轄治山事業現場において実施。

・交流研究発表では局長賞受賞。

・新たな崩壊地への対応として、上秋津地区の現地調査を実行中。

（田辺市長現地視察の様子）



（ベトナム研修生現地案内の様子）



## 低コスト造林の推進

【課題】 民有林への低コスト造林の普及（継続）

【取組状況】

・宮城川国有林において、伐採から造林まで行う一貫作業の請負事業を実行。

・平成29年3月、三重・奈良・和歌山県の林務担当者を対象に、「コンテナ苗植栽見学会」を開催。

【今後の課題】

・一貫請負事業について、データ収集を行い低コスト造林の成果を検証し、低コスト造林推進を図っていく。

・民有林への低コスト造林の普及に向けて、関係機関と連携した取組として、三重・奈良・和歌山県の林務担当者、森林組合等林業事業体を対象に、現地検討会を平成29年5月に開催予定。



＜植栽見学会の様子＞



（交流業務研究発表に参加）



（愛賀合地区で高校生職場体験の様子）